

実 習 風 景

今後は家庭科や農業高校での利用を期待している。

数値制御工作機械実習は、TSS端末でソリッドプログラムを作成、これをコンピュータで処理してNC指令テープを出力、さらに自動製図機で描画させて正しいかどうかを確かめ、正しければ素材の切削加工を行うといった一連の過程を実習している。

以上述べた実習は、来所して行っているが、遠隔地にあつて来所できない学校ではOCR（光学文字読取装置）用紙にプログラムを書いてセンターに郵送し、センターでこれをコンピュータで処理の上、結果を学校に返送する方法でプログラミング実習を行っている。

三 実習所感

「そこには感動があつた。TSS端末、ラインプリンタ、自動製図機などを媒介として教師と生徒とのコミュニケーションから自然に生じてきたものである……」

六月末、数値制御工作機械実習での引率教師の反省記録の一部である。先生と生徒のコミュニケーションから、「感動」が生まれたのである。

年間約九十回の生徒実習を実施しているが毎回見られる実習風景である。朝、学習意欲を見せない生徒でさえも、次第に熱中し、昼食時間も惜しんでTSS端末に向い、課題を完成させた成就感をもってセンターを去って行く。

生徒は、実習でさまざまなことを身につけているようである。ここに生徒の感想文の一部を記しておく。

・プログラムなんてできっこないと思つてしたが、いざ、取り組んでみると思つたよりむずかしくなかった。何もかもが驚きであつた。この実習でこれからの勉強や進路を考えるのに大変役立つような気がする。

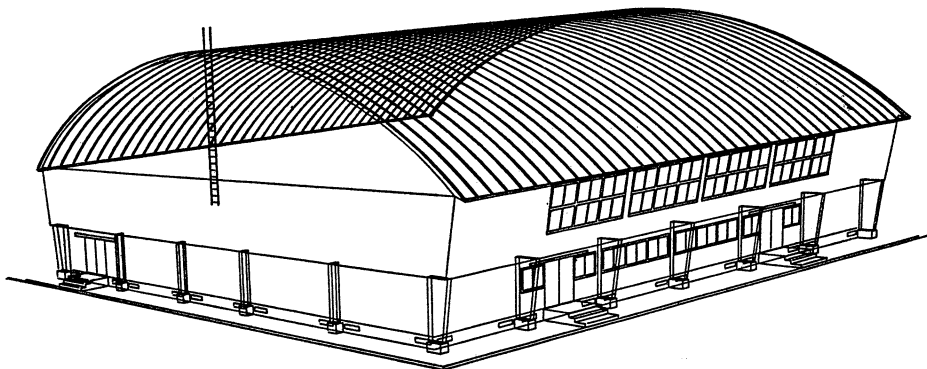
・コンピュータが世の中いっぱいであつたら我々は時代の流れについて行けなくなつてしまふかもしれない。学校でもっと教えてほしい。

・わからないところがあるとすぐにとんできて親切かつ、ていねいに教えてくれる。僕は見ていてとても気持ちよかつた。

おわりに

進展する情報化社会は、現代の生徒たちが担っていく。今、この時期に情報処理教育がしっかり行われなければならない。生徒たちは、抵抗なく新しい機器を操作し、新しい考え方を受け入れてくれる。

生徒実習は、学校での教育的補完的役割をもつと同時に、先導的役割も果たさなければならない。今後は、データ処理実習のためのソフトウェアの開発に努め、より一層充実した生徒実習ができるようにしたいものと考えている。



自動製図機で描いた
体育館概念図